

営農情報 (水稲)

令和元年7月発行

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

1 生育概況

今年の田植えは、6月19～25日頃を中心に行なわれました。苗の活着は概ね順調でしたが、曇雨天による日照不足の影響で軟弱徒長気味の生育となっています。

天候の影響で、初期除草剤の散布が遅れているほ場があり、そのようなほ場では、雑草が多発する可能性があります。

今後はほ場をよく観察し、除草や施肥、防除等、適期作業に努めましょう。

2 除草剤

○初期除草剤を散布できなかつたり、降雨の影響等により効果が劣り、雑草が残っている場合は、中・後期除草剤を使用しましょう。

薬剤名	使用時期	散布量 10a当たり	備考
ワイドアタックSC (液剤)	移植後20日～ ノビエ6葉期	1000ml (水100Lに希釈)	○ヒエ、広葉雑草の両方に効果 ○落水して雑草にかかるよう散布
クリンチャー1キロ粒剤	移植後25日～ ノビエ5葉期	1.5kg	○湛水にして散布 ○キシユウスズメノヒエに適用あり
クリンチャーバス ME液剤	移植後15日～ ノビエ5葉期 収穫50日前まで	1,000ml (水100Lに希釈)	○ヒエ、広葉雑草の両方に効果 ○落水またはごく浅く湛水して散布 ○展着剤は加用しない

3 水管理

(1) 倒伏防止のためには、水管理が最も重要です。必要茎数(20本/株程度)が確保できたら、早めの中干しを実施します。

特に、「元気つくし」の倒伏防止のためには適期中干しが重要です。

(2) 中干し後は、間断かん水を行います。なお、中干しが不十分なほ場や、葉色が濃く倒伏の恐れのあるほ場では、強めの間断かん水を行ってください。

(3) 穂ばらみ期から穂揃期にかけては、最も水分が必要な時期なので出穂前後1週間ずつは湛水します。

4 穂肥

穂肥時期の目安と施用量は、以下のとおりです。それぞれのほ場で幼穂長や葉色を観察し、穂肥時期や量を決定します。

品種	第1回目穂肥施用		10a当たり施用量(kg) NK7号	
	穂肥時期の目安	幼穂長(mm)	1回目	2回目
元気つくし	8/2頃	5	15	10
ヒノヒカリ	8/10頃	3～5	20	なし
ツクシホマレ	8/13頃	2	25	20

※ 穂肥2回目は、1回目の約1週間後に施用します。

5 カメムシ類対策

カメムシ類対策には、出穂期～登熟期に防除を行います。農薬散布前に発生を抑えるためには、畦畔などの草刈りが重要です。出穂14日前までに畦畔など水田周辺の除草を徹底し、カメムシの住み処を無くしましょう。ただし、イネが出穂してからの除草は、カメムシ類の水田への飛び込みを助長するので実施しないでください。

6 病害虫防除

福岡管区气象台による向こう3か月（令和元年7月から9月）の天候の予想は、気温は平年並み、降水量は平年並み～多くなっており、ウンカ類や紋枯病の多発が懸念されます。ほ場での発生状況を十分観察し、適期防除に努めてください。

① 葉いもちの発生を認めたら、下表のとおり早めに防除を行います。

品種	剤型	薬剤	適用病害虫	希釈倍数 (10aあたり使用量)
元気つくし ヒノヒカリ ツクシホマレ	粒剤	コラトップ粒剤5	いもち病	4 kg

② 基本防除は、下表のとおり8月中旬ごろに行います（詳細は次号）。

品種	剤型	薬剤	適用病害虫	希釈倍数 (10aあたり使用量)
元気つくし ヒノヒカリ	粉剤	アプロードモンカットスタークルF粉剤DL	ウンカ類	4 kg
	液剤	アプロードモンカットエア－ ＋スタークル顆粒水溶剤	紋枯病 カメムシ類	1000倍 2000倍
ツクシホマレ	粉剤	アプロードロムダンモンカットF粉剤DL	ウンカ類	4 kg
	液剤	アプロードロムダンモンカットエア－ ＋スタークル顆粒水溶剤	コブノメイガ	750倍 2000倍

※ アプロード剤に対するトビウカ類の感受性が低下しているため、スタークル剤と混用して使用してください。

※ ウンカ類への効果を高めるため、防除作業は湛水状態でを行います。

③ 出穂前～出穂期の補正防除は、以下の通りです。

品 種	防除時期	薬 剤 (全品種とも粉・液いずれか)	適用病害虫	希釈倍数 (10aあたり使用量)
元気つくし	8月16～21日頃	(粉剤) ブラシントレボン粉剤 DL	いもち病 ウンカ類 カメムシ類	(粉剤) 4 kg
ヒノヒカリ	8月25～30日頃			
ツクシホマレ	8月31日～ 9月5日頃			

注) 液剤を使用する際の散布水量は、10aあたり100リットルです。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!